



第60回定期総会・新年会

60° Assembléia Geral A C A Iwate Kejinjinkai e Sinnenkai 2019



1月20日 2019年度岩手県人会の「第60回定期総会・新年会」が行われ約60名が参加し、県人会継続への誓いや「新年会」が行われた。

総会は大関照子司会の開会で始まり、先亡者への黙祷。千田会長は昨年度の様々な行事や60周年式典では、開催費用資金調達や準備や本番への協力に感謝の気持ちを述べた。

議長には大関さんを選出、書記や議事録署名者は田口精基、平野マリアさんを選出した。出席者人員を



確認後、大関書記から事業報告、昆野ワシントン会計が収支会計報告を行った。千田会長が補足として60周年事業としての収支を数字で説明。

監査所感は野村なおみ監査役が、急用のため平野マリアさんが代理で所感を述べた。質疑応答では、亀ヶ沢アメリアさんが備品項目について質問。昆野会計が必要備品など購入費と説明。

後半に入り、2019年度事業計画を読み上げた。予算案は昆野会計が昨年度収支予算 R\$190,000 に対し、本年度は収支 R\$ 192,500 と

説明した。

理事会提案として会費調整は昨年度と同額の R\$100,00 とした。一般提案は特になく、会長から一世移住者の高齢化や県人会継承のため次世代への協力をお願いした。記念誌発行への項目を説明し執筆中であるが、急がず悔いのない記念誌にしたいと話した。

引き続き「役員改選」については連名候補者の届け出がなく、千田会長は会継続のため無責任に辞退し、船頭がいなくては会継承へ繋がらず、皆さんの協力をお願いし役員候補を会員へお願いした。

「賀詞伝達」達増県知事から、移住された県人に「賀詞（75才を迎えた方）平成30年度賀詞受領者として市内在住の菊池透氏（盛岡市）、アチパイア在の猫塚司氏（花巻市）、ポルトアレグレ在の藤沢晴己氏（都南村）へ届け、菊池徹さんへ千田会長が表彰状を代読。記念品と共に伝達された。

猫塚氏は郵便事情で間にあわなかったのでは、藤沢氏は遠方のため送付を願った。

お二方には後刻郵送で伝達された。



新年会・Sinnenkai 2019

「新年会」千田会長が改めて新年の挨拶を述べ年度会活動の協力を願った。菊地義治名誉会長の挨拶に **Saude、Viva！、Banzai** と乾杯の音頭があった。今回は日本料理に **Churrasco** の仕出し料理を賞味し、会員家族はじめ元留学生研修生同士も久々の再開があり、健在の確認、思い出話などに花が咲いた。



「ケーキ」を囲んで、千田会長から菊地前会長、千葉前副会長さんらが出て、現在まで県人会が継承されていると経緯を説明。今後の県人会が次世代まで継続されるようお願い皆で「Parabéns おめでとう」を歌い、ケーキカットが行われた。

食事が終わって参加者全員で記念写真に収まった（写真 1ページに掲載）。



こうして談笑や交流会のなか、のど自慢者が次々とカラオケを楽しんで午後4時過ぎ散会した。



盛岡の山口 碧さんが来館

Midori Yamaguchi (Iwate-ken) JICA Voluntárias

2019年度 JICA 青年やシニアボランティア皆さん16名と、1月25日サンパウロ事務所で各県人会代表者らと会う機会があり紹介された。



当日は短い時間であったが、盛岡出身の「山口碧さん、写真中央」や他県出身者とそれぞれが昼食をともに懇談した。

県人会では山口さんと連絡をとり、27日岩手の山口さん、鹿児島島の戸山さん、兵庫の枝松さんが東洋街視察がてら当会を訪問した。

山口さんは「コミュニティ開発（地域住民が望む生活向上や地域活性化への寄与を目的）分野でサ州レジストロ日伯文化協会に赴任する。以前山口さんはゴヤニア州で活動、岩手ではテレビ・アサヒで記者の経験もあるという。県人移住者の歴史を取材したいと話していた。



県人会ではレジストロ在の「清水はるみりな」さん（1991年度留学生で建築を学ぶ）に連絡。赴任されたら宜しくとお願いしました。

ロライマ州在の堀江節郎さん（釜石出身・1972年移住、

1980年調査ではキリスト教の宣教師とある）が、2月8日親戚筋とみられる伊勢聖子さん、伊勢若菜姉妹（釜石出身者）を伴って来館。伊勢姉妹は観光旅行でブラジル訪問されたとの事。

一行は次のスケジュールがあり、移住者の堀江氏について詳しく聞くことが出来なかった。訪問者の携帯を書いていたので、後にお尋ねしたいと思っている。



細越良平さん健全でした

10月25日、細越良平さんとリベルダーデ広場の太陽堂書店にて出会った。店員の一人が千田さん宿泊施設を知っていたらと岩手出身の細越さんに教えてくれないかと、話しいるうちに細越良平さんだと判った。では、兄さん（太一さん）の事を話したら亡くなった事は知っていた。

県人会に案内いろいろ話を聞いた。宿泊は県人会から近い県人会を紹介した。当分サンパウロに滞在とのことで年末近くなったらマナウスに帰るとの事。

菊地透さんから以前細越さんは、アマゾン地方にいと話は聞いていたが、マナウス在だと言う。住所など詳しい事は話そうとしなかった。

御礼 去る8月26日の県人会創立60周年記念式典開催に対し、会員はじめ、留学研修生などから大きな協力がありました。

また、母県庁や市、町、慶祝団、賛助会員からと当日来賓主要日系団体、各県人会、有志の皆様方からお祝いがありました。

皆様方のご協力で無事式典が開催されました事に、心から感謝申し上げます。
岩手県人会 会長 千田曠暁

創立60周年記念式典事業のご報告

会員や留研究生、賛助会員の寄付および、招待者等からのお祝いを加えてR\$ 70,240,00。母県から事業に対する特別助成金もあり、他に慶祝員皆様からお祝いとして外貨で頂きました。

支出では、R\$ 135,556,11、記念誌発行は時間がかかりますが予算を計上しております。

創立60周年記念誌発行について

昨年8月26日「ブラジル岩手県人会創立60周年・県人移住100周年」式典が会員はじめ母県庁、市町村、海外県人会、賛助会、郷土芸能使節や慶祝団ご一行を迎えて、成大に挙行できました事に改めて心より御礼申し上げます。

先輩移住者皆さんの郷愁への思いから、県人会の発会となり60周年を迎えました。戦前戦後を通して移住された県人皆様もご苦勞の末、今日を築かれ移住の使命を果たせた方、未だ奮闘されている方々も多くいるのか知れません。でも時と共に鬼籍に入られたり、高令化している現状を見ると、愛された県人会の記録を今残さないと歴史と共に消えるかも知れない？。移住された県人子弟や母県関係省庁等に伝えるとともに、後世への資料となれば幸いと存じます。

2018年度 図書利用数 4,575冊 - 1,061名
2018年度 来館者数 4,181名

佐々木栄洋さんと懇談

12月17日、JICA 中小企業海外展開支援事業で来伯中の遠野市企業栄組の佐々木栄洋、浅沼敏幸、菅原さんの3氏と懇談の機会があった。

中でも浅沼さんは25年前1年間サッカー留学で、当会現副会長の田口精基さん勤務の学校で世話になり、ホームステイ先は田口さん宅だった。当日は姉のまさこさんも参加し過ぎ去った思いを語り合った。



記念誌の内容

① 県人移住者名簿（日語、ポ語 CD に記録し子孫へのルーツが調べられる）誌には日語だけ掲載予定。名簿は当初発行の県人名簿を再記載し、調査年代再調査を併合します。氏名、移住同行者、出身地、入植地点々、生年月日、移住年月日、移住船名、調査年、他家に嫁いだ方は父親名を記載。家族は調書に掲載された子弟や孫名など。（移住者名簿だけでも180ページほど）

② 内容は、県人会の創立、県人調査、創立記念式典、杉村公使と墓碑参拝 - 墓碑改修、県人会事務所と現会館、活動、留学研修生リスト、会報、寄稿、記念誌への寄稿文、大体以上が考えられると思います。

逝去の報 Falecido

中村 協男 さん (Yasuo Nakamura 大洋漁業移住) は 2015 年に亡くなっていると娘さんから連絡あり。

千田 江口 照子 さん (Teruko E, Chida 通称 Teresa、行年 78 才、夫 曠暁) は、急性動脈瘤で 2 月 8 日急逝致しました。



千葉 和枝 さん (Kazue Chiba. 行年 77 才、一関出身、花嫁移住) は、

2 月 10 日急逝されました。

その他連絡のない方々もいると思いますが、逝去者のご冥福を祈ります。



親しまれたサンパウロ新聞 73年の歴史に幕

日系コロニア人に親しまれた日語新聞「サンパウロ新聞」が73年の歴史を終え12月22日付けで廃刊となった。

最終版では、コロニア十大ニュースと共に廃刊と記されている。

戦後いち早く日本人読者のためと、発刊されたサンパウロ新聞社。最盛期にはサ紙、パウリスタ新聞、日伯新聞と3社が競合した。

この頃各新聞社は「年鑑」を発行。内容は国際、コロニア、ブラジル、日本の出来事など月別に掲載されていた。その他に各地の企業や個人の広告で各社は潤ったに違いない。

★ 当時の新聞や年鑑が岩手県人会発足 260 家族の県人移住者の資料となった。

時代の流れが後続移民が途絶えてから久しく、読者の減少と共に日語新聞の経営も困難となり、パウリスタ新聞と日伯新聞が合併しニッケイ新聞社となった。

世代の流れと共に国語である、ポルトガル語が重要になっている。各団体での会合も大半がポ語となり、会報などもポ語での発行が多くなっている。歴史は繰り返されると言うが各国移民の母国語は、残念ながら近い将来消える運命ではとも思える？。

一紙だけとなった邦字紙「ニッケイ新聞」の永続発刊を祈りたい。

町の話 トロ・リ広場が Japão に

旧聞になるが昨年、日本移民110周年を記念してリベルダーデのトロ・リベルダーデ駅が「ジャポン・リベルダーデ」駅



に、また、リベルダーデ広場が「プラッサ リベルダーデ・日本」と改名された。週末や休日は今まで以上に一躍観光地？になった。



餅搗大会 Moti tsuki

12月15日、恒例の「餅つき大会」が行われ、120キロの餅米を用意。前日モチ米を洗い浸しておいた。

当日30数名がお手伝いペタンコ・ペタンコと来客の囃子に大忙し、また、餅つき体験もあり、ブラジル人女性も初めて搗いた。囃子に乗せられ体験し喜ん



でいた。こうして和やかな雰囲気の中で夜9時ころ最終餅つきが

終わった。餅は前売りや注文



に応じたことと、お店の餅は雑煮にしたら溶ける、また岩の餅は「良い餅」と例年通り混ぜ物がないと前評判もあり、お陰様で完売した。

餅つきに携わった皆さん大変ご苦労様でした。来年もよろしくお願ひします。



忘年会 2018年・67° 誕生会 Bônenkai 2018 e 67° Aniversariante

12月16日、2018年度忘年会と第67回目の誕生会が行われ、約60名が交流を楽しんだ。

多田照子さん（書記）の司会により開会され、先亡者への黙禱、千田会長から1年間の様々な催し、特に今年は県人会創立60周年式典開催へ、会員皆様から多大な協力に心から感謝しますと謝意を述べた。また来る2019年度も宜しくお願いしますと述べた。



パラ州ベレンから来聖中の山中正二県人会長の音頭で乾杯。会員の持ち寄り料理や、昨日搗いた餅で雑煮を頂きながら60名ほどが交流懇談した。

山中氏は1960年カンピーナスの東山の實習研修生として移住。研修を終えた氏は、当時のジャミック植民会社に入社しパラ州トマス移住地造成に20年間携わった。1982年山中商事会社を設立、観



葉植物、花卉生産販売、造園事業をを手掛けアマゾン地区で先鞭をつけた。2007

年には地元商工会と県人会で「山本清誉司賞」に推薦し受賞された。現在の家族は孫まで数えて25名の一族になったと語った。

途中から JICA 企画「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」で来伯中の遠野市の栄組代表佐々木栄洋さん、浅沼敏幸さん、菅原さんも参加した。同社ではコンクリートの補修補強専門会社補修技術を全国に提供。ブラジルにも進出希望で建設企業など訪問し、将来的な希望があると語っていた。皆さんに紹介し懇談した。（記念写真 後方左から五番目が佐々木さん）

「ピンゴ（数字あわせ）が行われ、一喜一憂する数字に沸いた。また、8月から12月生まれの誕生会も行われ楽しい一日を過ごした。

★ 後日佐々木さんと懇談の機会を得て語り合った。



2019-2020年の役員 Nova Diretria de 2019-2020

会 長 千田 曠暁 **Presidente** Hiroaki Chida
副会長 田口 精基 **Vice Presidente** Sekiki Taguchi
副会長 平野 マリア **Vice Presidente** Maria Hirano
会 計 昆野 昭仁 ワシントン
Tesoureiro Washington Akihito Konno
会 計 手島 修 ジョージ
Tesoureiro Jorge Osao Teshima
書 記 野村 ナオミ **Secretarário** Naomy Nomura
書 記 川村岩上 ユリ リリア
Secretarário Liria Yuri Iwakami Kawamura

監査役 川村 益夫 ネルソン
Conselheiro Fiscal Nelson Masuo Kawamura
多田藤村 エミリア
Conselheiro Fiscal Emilia Fujimura Tada
大関多田 照子
Conselheiro Fiscal Teruko Tada Oseki

☆ 話し合いで以上の役員を選出されましたが、後継者育成の為に常任理事さんに適当と思われる方々に、お願い状を出して就任を要請することとなりましたので、よろしく願い申し上げます。

☆ 名誉会長や相談役の先輩方には引きつずき宜しくお願い致します。

会費納入者名 Anuidades (Anual R\$ 100,00)

藤村光夫 (Mitsuo Fujimura)、藤村美恵ノルマ (Norma Mie Fujimura)、福沢哲男 (Tetsuo Fukusawa)、高崎まりこ (Mariko Takasaki)、寒河江良廣 (Yoshihiro Sagae)、千田曠暁 (Hiroaki Chida)、手島おさもジョージ (Gyorge Osamo Teshima)、手島多田良子 (Ryoko Tada Teshima)、小畑ともこ (Tomko Obata)、多田登 (Nobori Tada)、多田孝則マウロ (Mauro Takanori Tada)、千葉直義 (Naoyoshi Chba)、菊地義治 (Ypshiharu Kikuchi)、岩上田口まさこ (Masako Taguchi Iwakami)、山口しのぶセシリア

(Cecilia Shinobu Yamaguchi)、長野長勇 (Tyoyu Nagano)、川村益夫ネルソン (Nelson Masuo Kawamura)、岡田Nダニエル (Daniel N Okada)、亀ヶ沢アメリア (Amelia Kamegasawa)、佐々木寛一 (Kanichi Sasaki)、大森みどり (Midori Oomori)、すえの和江 (Kazue Sueno)、武田春雄 (Haruo Takeda)、及川たけおアルツール (Altur Takeo Oikawa)、和田 司 (Tsukasa Wada)、橋本敏郎 (Toshirou Hashimoto)、志賀光 (Hikaru Shiga)、及川公雄 (Kimio Oikawa)、アマラウ及川カイオ (Caio Oikawa Amaral)、亀ヶ沢アメリコ (Americo Kamegasawa)、2月25日まで

ふるさとだより 14 記事提供 岩手日報社 Web News

ブラジル料理で「おもてなし」遠野、合宿誘致目指し準備

フェジジョンの味を確認する菅原史子さん(左)と佐々木・エリカ・ヒロミさん。ブラジル代表チームの食事面の不安解消を目指す2018.07.12

2020年東京パラリンピックの5人制視覚障害者サッカーブラジル代表チームの事前合宿誘致を目指す遠野市で、12日の同国関係者視察に向けて「おもてなし」準備が進められてきた。



市学校給食センター(菊池幸司所長)は、遠野中での「交流すまいる給食」で提供するブラジル料理を担当。異文化生活で重要な食事面の不安解消につなげ、合宿地としての魅力アップを目指す。

舌触り滑らかなインゲン豆が、濃厚なスープの中でとろける。ブラジルの国民食である豆シチュー「フェジジョン」は、毎日のように食卓に並ぶおふくろの味だ。「やっとまるやかになった」。一からレシピを研究してきた同センターの栄養教諭菅原史子さん(43)は、ポイントの「とろみ」に手応えを示す。

菅原さんにとって、ブラジル料理は初の経験。インターネットで探したレシピを参考に試作したが、強すぎる塩味が気になった。「現地の人も、遠野の子も満足できる味の着地点を」と、1カ月間試行錯誤。しょうゆやニンニクの量を調整し、地元野菜も使った「日伯融合」のオリジナルフェジジョンを完成させた。

東京パラ合宿へきょう13日覚書 遠野市とブラジル関係者

ブラジルの視覚障害者5人制サッカー関係者は12日、2020年東京パラリンピックの事前合宿地として想定するホストタウンの遠野市を視察した。練習会場となる同市松崎町の国体記念公園市民サッカー場の環境や、おもてなしを含めたまちの雰囲気が高く評価。13日に市と合宿地の覚書を締結する。

同国視覚障害者スポーツ連盟のジョゼ・アントニオ会長、同サッカー代表のファビオ・ルイス監督ら4人が同サッカー場の芝の状態や段差の有無などを確認。市の担当者は来年夏までにユニバーサルデザインに対応したロッカールームを設置する方針を説明した。

市内の室内体育施設や宿泊施設も見学した。アントニオ会長はバリアフリー面で、練習会場などのトイレの充実を要望した。

練習会場となるサッカー場の芝の状態を確認するブラジルの関係者ら＝12日、遠野市松崎町 2018.07.13

☆ (ブラジル県人会から)

遠野市から依頼され、東京パラピック2020年に、ブラジル視覚障害者5人制サッカーチームの合宿招致運動の事前交渉につき、多田、田口両副会長らブラジル連盟を訪問、メールや電話での交渉のお手伝い、8月の60周年式典参加された遠野市長一行と、田口副会長が連盟事務所などを訪問した事をお伝えします、



岩手からは地酒「南部美人」を提供

東京五輪歓迎行事 2018.11.28

南部美人など東北の地酒で乾杯するバツハ会長（右）ら＝27日、東京都内【東京支社】日本オリンピック委員会（JOC）は27日夜、東京都港区のホテルで、各国オリンピック委員会連合（ANOC）総会に合わせた歓迎行事「JOCウェルカムレセプション」を開いた。



国際オリンピック委員、各国の五輪関係者ら約千人が来場。会場では復興庁が本県、宮城、福島の前大震災からの復興をアピールするため、3県の地酒を提供した。本県からは南部美人（二戸市）の純米大吟醸が振る舞われた。

新巻きザケ、寒風に泳げ

野田で作業最盛期 2018.11.3



最盛期を迎えている新巻きザケ作り。寒風を受けてうま味が増す 野田村野田のマルサお魚センター嵯峨商店（嵯峨政嘉社長）で新巻きザケ作りが最盛期を迎えている。店先につるされた銀色の魚体は、寒風にさらされ風

景勝「高田松原」の砂浜復活へ

陸前高田、再生作業進む

砂浜の再生が進む高田松原。海水浴客があふれ、日本百景に選ばれた白砂青松を取り戻す努力が続く＝8日、陸前高田市高田町 2018.12.09

東日本大震災で壊滅した陸前高田市「高田松原」の砂浜が、再生しつつある。工事現場見学会が8日開かれ、往時のように穏やかに波が寄せる浜辺が姿を見せた。かつては、どこまでも続く白砂青松の地として知られた。参加者は砂浜と松林の復活を改めて願った。

見学会には市内外の学生7人が参加した。広田湾を眺め、植栽された松をめでながら波打ち際を歩き、砂の感触を確かめた。

施工する鹿島・明和土木特定共同企業体によると、再生する砂浜は全長1750メートル、幅30～60メートル。10月には海水浴場になる700メートル区間が復旧した。来年3月には、さらに300メートルが完成する。津波

により、高田松原は松林がなぎ倒され、砂浜はがけ状に削り取られた。



出た！わんこそば 632 杯、大会新

盛岡で全日本選手権

驚異的なペースで632杯を平らげ、初優勝を飾ったMAX鈴木さん（右） 2018.11.13



第33回全日本わんこそば選手権（盛岡三大麺普及協議会主催）は11日、盛岡市繫のホテル大観で開かれた。一般個人の部

では東京都大田区のMAX鈴木（本名鈴木隆将）さん（38）が大会新記録となる632杯を食べ、初優勝を飾った。

約650人が来場。個人選手権は制限時間15分で行われ、12人が出場した。大会5連覇中の会社員井本英明さん（47）＝神奈川県小田原市＝に5分少ないハンディが課せられる中、鈴木さんが驚異的なペースでそばをかき込み、2位以下を引き離れた。

動画投稿サイトの人気投稿者（ユーチューバー）や大食いタレントとして活躍する鈴木さんは「わんこそばはだしが効いていておいしく味わうことができた。井本さんの背中を追い掛け、記録を出すことができてうれしい」と胸を張った。1チーム3人で構成し、1人2分ずつの計6分で競う子どもグループの選手権には18チーム、同じく一般グループの選手権には21チームが出場した。

味を増している。

村内や久慈市内の定置網で捕獲された肉厚で脂の乗りが良い雄サケのみを選別して塩漬け。その後、約5日間風にさらしてうま味を凝縮させ完成する。11月29日は約70匹がつるされた。

今年は11月上旬に気温が下がらなかったため、平年より半月ほど遅い同月下旬から作業が始まった。

6年がかり災害公営住宅完了 釜石、47 団地全て完成

釜石市で最後に完成した東部地区浜町復興住宅



釜石市浜町の東部地区浜町復興住宅（31戸）が完成し、19日に現地での竣工（しゅんこう）式を行った。同市内の災害公営住宅では最後の完成

で、県、市整備分合わせて47団地全1316戸が全て完了した。

建物は釜石港近くの津波浸水地を約7メートルかさ上げして建設。鉄筋コンクリート造り5階建て、延べ床面積約2370平方メートル。1LDK20戸、2LDK11戸と最上階に約60平方メートルの集会所を設けた。タカヤと山長建設が施工し、市が約9億5千万円で整備した。

全戸から海が見え、2階以上には各階に約50平方メートルの展望デッキを整備。災害時の緊急避難場所にもなる。歩行者と車両の出入り口を分け、車両入り口東側に公園、西側に広場があり住民の交流に活用できる。現在、市内外の26世帯が入居予定。

同市では2013年3月に同市上中島町の上中島地区1期が最初の復興公営住宅として完成。約6年かけて整備が完了した。

雄星が26日初先発へ マリナーズ監督が見通し

【ピオリア（米アリゾナ州）共同】米大リーグ、マリナーズの菊池雄星（花巻東高）のオープン戦初登板が25日午後1時10分（日本時間26日午前5時10分）にアリゾナ州ピオリアで開始予定のレッズ戦になる見通しであることが22日、明らかになった。サービス監督が「来週早い段階、恐らく月曜日に先発するだろう」と話した。

プロ野球西武から移籍1年目の菊池は順調に調整を進め、この日は味方打者相手のフリー打撃に2度目の登板をした。「いい状態で投げられたと思う」と好感触を口にした。サービス監督も「とても良かった。ストライクが多かったし、変化球も鋭かった」と評価した。フリー打撃に登板したマリナーズ・菊池雄星＝ピオリア（共同）



2019.02.23

県産リンゴ本出荷を開始

岩手中央農協、カナダへ500キロ 2019.01.17

紫波町の岩手中央農協（浅沼清一組合長）は16日、カナダに輸出する県産リンゴの本出荷を始めた。販売用としては初の同国輸出で、数量は500キロ。来週末にはトロントとバンクーバーの店頭にあぶ。

盛岡市下飯岡の同農協都南選果場前で同日、ふじ400キロとシナノゴールド100キロを納めた箱を農協職員がトラックに次々積み込んだ。

成田空港で20日に検疫を受けたリンゴは空輸され、カナダのスーパーなどで販売される。現地産リンゴの価格は1個25円ほどだが、県産は500円程度になる見込み。

写真 カナダへの本格出荷のためトラックに詰め込まれる県産リンゴ



地熱発電本格スタート 八幡平市、最大出力は7499キロワット

2019.01.30



八幡平市松尾寄木の松尾八幡平地熱発電所は29日、本格的な商用運転を始めた。最大出力は7499キロワットで、国内で出力7千キロワット以上の地熱発電所が稼働するのは1996年以来23年

ぶり。一般家庭約1万5千世帯相当の発電量を見込んでいる。

岩手地熱（同市柏台、資本金26億2647万円、水田幹久社長）が経営する同発電所は敷地面積2・6ヘクタール。地下1500メートル以深にある複数の地熱貯留層から2本の生産井（せい）を通じ地熱を取り出す。蒸気タービン1台、発電機1基、冷却塔1基を備える。

東北電力に売電し、一部は市内の公共施設で利用される。総事業費は非公表。

立地は同市と秋田県を結ぶ観光道路、八幡平アスピーテラインの御在所パーキング付近。建設に当たっては周辺の景観に配慮し、外壁を同パーキングに隣接する公衆トイレの外観と同系色にしたほか、施設は道路より3メートルほど低い位置に設置した。

写真；29日に本格運転を開始した松尾八幡平地熱発電所

復興へ歩む三鉄沿線

宮古一陸中山山間試乗ルポ 2019.02.13

東日本大震災で不通となり、3月23日に三陸鉄道リアス線として開通する山田線宮古一釜石間（55・4キロ）で、11日に開かれた報道関係者向け試乗会に参加した。津波で破壊された橋や駅が復旧した宮古一陸中山山間駅間の車窓から、復興へ歩む沿線を見つめた。

（宮古支局・新屋大介）

午前9時40分、宮古駅出発。県内外の報道関係者27人が新列車に乗り込む。津波で橋脚の半分以上が大破した旧宮古市役所付近の閉伊川の橋を通過。津波の恐ろしさを改めて思う。

車窓から見える景色は新鮮だ。国道からは防潮堤で見えない宮古湾を望みながら進む。津軽石駅では、震災当時停車していた列車が津波で大きく曲げられたと説明を受ける。目の前の穏やかな海とのギャップを感じる。

訓練運行とはいえ、沿線には8年ぶりに列車のある風景が戻った。スマートフォンで写真を撮る人、手を振る子どもたち。列車内から、住民の期待を感じた。

運転席横から見た山田町中心部。線路沿いでは宅地が引き渡され、住宅再建が進む。

住宅再建が進む。



岩手県人会ニュース 2019年2月発行 14号併合 2019年2月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

アソシアル岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



「二刀流」大谷が新人王 日本選手4人目の快挙



5月20日のレイズ戦に先発して4勝目を挙げ（左）、9月26日のレンジャーズ戦で22号本塁打を放つエンゼルスの大谷翔平選手＝アナハイム（共同）2018.11.13

【ロサンゼルス共同】米大リーグ、エンゼルスで投打の「二刀流」に挑んだ大谷翔平選手（24）＝花巻東高＝が12日、ア・リーグの最優秀新人（新人王）に選出された。日本選手では1995年の野茂英雄投手（ドジャース）2000年の佐々木主浩投手、01年のイチロー外野手（以上マリナーズ）以来、17年ぶり4人目の快挙。

昨季までプロ野球日本ハムに所属した大谷選手は4勝、22本塁打を記録するなど二刀流で活躍した。新人王は全米野球記者協会会員の投票で決まり、他はヤンキースのミゲル・アンドウハー、グレイバー・トーレス両内野手が候補になっていた。